グアダルーペ・オル ティス・デ・ランダ スリ、尊者に

2017年5月4日、教皇フランシスコは、列聖省が十二件の手続きに関する承認を発表することを認めた。その中には、オプアダルーで・オルティるグアダルーペ・オルティス・デ・ランダスリ(1916~1975年)の英雄的諸徳に関する宣言が含まれていた。

オカリス師は、さらにこう語った。「すべての列聖のケースは、喜からにおけるを方におけるを発見するようがでいた。ないでは、ないででは、ないででは、ないででは、ないででででも、ないではないでは、メキシコ、インにでは、メキシコ、インにでは、メキシコ、インにでは、メキシコ、インにも、対にも、対にもはの自るを捧げる者としても、常にキリスのにないができます。

ト教的喜びにあふれていたのでした。グアダルーペの模範は、神が聖性に呼ばれる時、とてもありふれた事柄でさえ、広範で美しい広がりをもつもの、そして神との一致という幸福に多くの人々を近づけるために役立つものとなるのだということを、私たちに示してくれるのです。|

「彼女の模範が、私たちが周囲に平和と喜びを広げつつキリスト者としての人生を歩むのを助けてくれるよう、神に祈っています。」

列聖請願者であるアントニオ・ロド リゲス・デ・リベラ師はインタ ビューの中で、グアダルーペは「神 を心から愛した女性であり、信仰と 希望に満ち、その仕事と楽観さに よって人々の霊的、物質的必要を満 たした。大変困難な状況下にあった 際も含めて、あらゆる振舞いの中に 喜びを表していた。」

年表

1916年12月12日、グアダルーペの聖母の記念日にマドリードで誕生。マドリード中央大学で化学を専攻した。同学年の五人の女子学生の一人であった。スペイン内乱の際、軍であった父親が銃殺刑を受ける直前、その父親を力づけた。最初の時間からその出来事の責任者たちをりるした。内乱終結後、大学を修了し、マドリードの二つの学校で教える教師となった。

1944年の初め、友人を通してオプス・デイ創立者、聖ホセマリア・エスクリバー神父と知り合い、専門職と日常生活を神と出会う場とすることが可能であると教えられる。後にこう語っている。「あの司祭を通して、神が私に話しかけておられるのだと確信していた。」同じ年にオプス・デイのメンバーとなる。

それ以来、グアダルーペは、一切の 条件を付けることなく、聖性の追求 と、多くの人々を神に近づける務め に献身した。まずマドリードで、そ の後ビルバオで、特に若い人たちに 形成を与える仕事に没頭した。

1950年から1956年まで、メキシコにおけるオプス・デイの使徒職の活動を始めた。寛大さと深い信仰をもって、野心的なこの仕事にあたったらいの彼女と知り合った人たちは、社会を果たするとと事項であることが彼女の優先事項であることが彼女の優先事項であることが彼女の優先事項であることが彼女の優先事項であることが彼女の優先事項であるのといる。グアダルーペの表している。人間的専門職的形成活動を繰り広げた。

1956年、ローマに移り、オプス・ディの統治における聖ホセマリアの協力者となった。二年後、健康上の理由からスペインにもどり、教師と研

1975年7月16日、カルメル山の聖母の記念日に、パンプローナにて心臓疾患のために、聖性の誉れのうちに59歳で帰天。

それ以来、グアダルーペへの私的な信心は広まり続け、列聖請願者によれば、その取り次ぎを願った人たちは様々な種類の恵みを受けている。病気の治癒、妊娠や出産に関する問題解決、仕事の獲得、仕事と家族の

両立、経済的問題の解決、家族内の 和解、友人や同僚の回心、など。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/guadalupe-ortiz-de-landazuri-sonja/(2025/12/15)